

令和5年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価」

大阪市立長吉第二幼稚園

令和6年3月

大阪市立長吉第二幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人との関わりのもちにくさが課題である。地域の方との関わりでは、関わり方を状況に合わせて変えながら、心の交流が図れるように工夫し、直接的な交流が再開できたときにつなげていけるようにする。また、園内での異年齢交流を通し、人と関わる楽しさを味わえるようにしていく。
- 外出できる機会が減っている現状からも、子どもたちの体力向上に努めていく必要性を感じている。日々の園内での遊びに加え、地域の公園や園外保育なども活用しながら、存分に体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにしていく。
- 実態に応じ、必要な基本的な生活習慣が身につくよう、指導内容を工夫し、家庭と連携しながら、継続的に取り組んでいく。
- 教育環境の充実を目指し、教員研修を行い、就学前教育カリキュラム改訂版を活用し、資質向上に努める。また、教員間で幼児の実態把握や教材研究を行ったりしながら、子ども達が様々な活動に主体的に取り組むことができるよう、環境構成を行う。

中期目標

【安心・安全な教育の推進】

- 令和7年度末までに、保護者アンケートで、「幼稚園は、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目で、「そう思う」「やや思う」を85%以上にする。
- 令和7年度末までに、保護者アンケートで、「幼稚園は、安全教育の推進に努めている」の項目で「そう思う」「やや思う」を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末までに、保護者アンケートで「子どもは、すすんで体を動かしている」の項目で「そう思う」「やや思う」を85%以上にする。
- 令和7年度末までに、保護者アンケートで、「子どもは、基本的な生活習慣を身につけている」の項目で、「そう思う」「やや思う」を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末までに、保護者アンケートでの項目で「幼稚園は、子どもが意欲的に遊べる環境づくりに努めている」の項目で「そう思う」「やや思う」を85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安心・安全な教育の推進】

- 令和5年度の保護者アンケートで、「幼稚園は、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目で、「そう思う」「やや思う」を75%以上にする。
- 令和5年度の保護者アンケートで、「幼稚園は、安全教育の推進に努めている」の項目で「そう思う」「やや思う」を75%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和5年度の保護者アンケートで「子どもは、すすんで体を動かしている」の項目で「そう思う」「やや思う」を75%以上にする。
- 令和5年度の保護者アンケートで、「子どもは、基本的な生活習慣を身につけている」の項目で、「そう思う」「やや思う」を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和5年度の保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが意欲的に遊べる環境づくりに努めている」の項目で「そう思う」「やや思う」を75%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安心・安全な教育の推進】

- 令和5年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目で、「そう思う」「やや思う」が100%であった。
今年度5月よりコロナウィルス感染症が5類に移行され、さまざまな行事でのふれあい活動が緩和された。人とふれあい、手をつなぎ話し合うことの尊さを実感できた年度であった。幼稚園が子どもたちにとって、人とふれあえる環境であり心の成長を育める場所であるよう保育を進めたことが要因となったと考える。
- 令和5年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、安全教育の推進に努めている」の項目で「そう思う」「やや思う」が100%であった。
安全教育という目に見えにくい項目であるが、「あんぜんだより」の作成・啓発活動で保護者への理解も進んだと思われる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和5年度末の保護者アンケートで「子どもは、すすんで体を動かしている」の項目で「そう思う」「やや思う」が100%であった。
上記の人とのふれあいとも通じるが、異年齢のかかわりが増えたことで、互いに刺激を受けたり全園児と一緒に体を動かすことの楽しさを味わったりする姿が見られ結果へとつながった。
- 令和5年度末の保護者アンケートで、「子どもは、基本的な生活習慣を身につけている」の項目で、「そう思う」「やや思う」が94%以上であった。歯と口の健康では、園児に向けての発達段階をとらえた長期的、計画的な指導や、家庭や園医と連携をとった指導などを実施し成果につなげた。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和5年度の保護者アンケートでの項目で「幼稚園は、子どもが意欲的に遊べる環境づくりに努めている」の項目で「そう思う」「やや思う」が100%であった。今年度は特に機会をとらえた細やかな打ち合わせ、計画案づくり、振り返りの充実や園内研修の積極的な実施などを通して、教職員の保育力向上をねらったことが目標達成の要因となった。

大阪市立長吉第二幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標通りに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安心・安全な教育の推進】 ○ 令和5年度の保護者アンケートで、「幼稚園は、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目で、「そう思う」「やや思う」を75%以上にする。 ○ 令和5年度の保護者アンケートで、「幼稚園は、安全教育の推進に努めている」の項目で「そう思う」「やや思う」を75%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○ いろいろな人とのふれあいを通して、親しみや思いやりの気持ちを育む。	A
指標 ① 異年齢で関わる活動を月1回以上行う。 ② 地域の方や近隣校との交流の内容を実態に応じて工夫し、年10回以上実施する。 ③ 親子でのふれあい遊びを学期に1回以上実施する。	
取組内容②【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】 ○ 年間計画に基づき、避難訓練や安全指導を行う。	A
指標 ① 「警備及び防災計画」や「安全（防犯）対策マニュアル」に基づいた年間計画を作成し、避難訓練を年8回実施する。 ② 降園指導を年3回実施し、実態を把握する。 ③ 安全教育の取り組みを家庭へ啓発できるよう、安全だよりを発行する。（年3回）	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】 令和5年度の最終保護者アンケートでは、「幼稚園はいろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目で「そう思う」が91%「やや思う」が6%という結果となった。 ① 月1回以上、体操やかけっこ、3学期にはマラソンを行った。年間を通してクラス間を行き来して遊ぶ経験を積み重ねてきた。2学期には運動会で取り組んだ遊びやダンス、3学期には各クラスの発表会でしたお話の遊びや楽器遊びを行事の後にも継続して遊び、異年齢で誘ったり教え合ったりすることで、友達に憧れたり優しく教えたり応援したりして、相手を思いやる気持ちが育った。また、園庭の野菜や果実を、異年齢と一緒に観察、収穫し、感動体

験を共にしたことで、4・5歳児が3歳児に優しく収穫物を手渡すなどの交流が自然とできた。(サクラランボ、タマネギ、ジャガイモ、スモモ、コメ、カキ、キンカン、レタス、ハウレンソウなど)

- ② 今年度は計21回交流を実施した。保育所や幼稚園との交流では、いろいろな友達と遊ぶことや一緒に活動することの楽しさを感じ、高齢者との交流では、回数を重ねるごとに親しみやいたわりの気持ちをもって関わることもできた。地域の方には園で収穫したジャガイモをおすそ分けした。自分たちで直接手渡し、お礼を言っていただくなど言葉を交わす中で、いつも幼稚園を見守ってくださっていることを実感できた。9月は敬老の集いを行い、園児の祖父母の方々と一緒に遊び、昔遊びを教えてもらうなどして、ふれあう時間を楽しんだ。

平野支援学校とは、10月に一緒にダンスや、ふれあい遊びをし、11月には劇を見せてもらった。児童の一生懸命取り組む姿を見て、応援する気持ちや刺激を受けた。

12月に小学5年生とふれあい風揚げ、中学3年生の家庭科の授業の一環で、中学生の手作りおもちゃで遊ぶ交流を行った。お兄さんお姉さんに教えてもらったり一緒に遊んだりしたことで優しくされる嬉しさを感じることができた。1月の小学校との合同避難訓練でも5・6年生に優しくしてもらったことで、人の温かさを感じる機会となった。今年度は未就園児活動で、ふれあいデーを再開し、各クラスが中心となって一緒に遊び、より深く関わることもできた。様々な交流を通して、いろいろな人に親しみをもつことができ、相手を思う気持ちを育むことができた。

- ③ 隔月で行っている誕生会では、誕生児とその保護者で季節に応じた遊びやダンス、運動会や生活発表会で行った遊びなどで遊ぶ機会をつくったことで、親子でふれあう楽しさを感じることができた。

5月には親子で夏野菜の苗植え、10月には冬野菜の種まきを実施した。親子で野菜を育てたことで、生長を共に観察して収穫を楽しむことができた。また、幼稚園で育てたコメの脱穀にも親子で取り組み、コメが白米になるまでの大変さをいろいろな過程を経験し、農家の人の苦労も学ぶ機会となった。

今年度は、コロナウイルスが5類に移行したことで、運動会では全園児でのふれあいダンスや各クラスのふれあい競技をプログラムに入れたり、月末の保育室降園は、親子でできる手遊びやふれあい遊びをしたりして、楽しさを共有する時間と充実感をもつことができた。

取組内容②【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】

令和5年度の最終保護者アンケートでは、「幼稚園は安全教育の推進に努めている」の項目で「そう思う」が91%「やや思う」が9%と肯定的な意見が100%という結果となった。

- ① 年間計画を見直し、今年度の計画を作成した。それをもとに避難訓練を、保護者引き取り訓練を含め計10回実施した。

3歳児は、初めての避難訓練では4.5歳児の避難する様子を見学する形で無理なく参加したことで、2度目からの避難訓練では落ち着いて避難することができた。近隣小学校との合同避難訓練や保護者引き取り訓練など様々な訓練を経験として積み重ね、安全への意識が芽

生えてきた。

4歳児は、昨年度からの積み重ねや避難時の約束を再確認することを通して安全な避難の仕方を身につけている。また、消防士や消防車との触れ合いを通して地域の安全にも目を向ける姿があった。一年の訓練を通して自信を身につけることができた。

5歳児は、全園児の手本になろうという気持ちをもって避難訓練に参加した。その姿を他児や教職員に認めてもらうことで更なる自信へとつながった。また、7月に実施した「おもちゃ花火教室」では、消防士の人の話をよく聞き安全に実践することができた。避難訓練の積み重ねが安全への意識を高め、ルールを守ろうとする姿にもつながっている。

全園児が計10回の避難訓練を通して安全への意識や自分の命を守ることの大切さを感じることができた。

- ② 降園指導を計3回実施した。園児の降園経路の再確認を行い、見守りポイントの見直しを行った。その結果、効率的に降園の際の実態を把握することができ、ポイントを押さえた指導へとつなげることができた。また、次年度の的確な指導につなげるため保護者アンケートを実施し降園指導への保護者ニーズや地域の危険箇所の把握などに役立てた。
- ③ 安全だよりを計4回発行した。安全だよりでは、避難訓練や安全教室などの様子を写真を用いて簡潔な文章を添え、「見やすく・わかりやすく・伝わりやすく」なるよう心がけて作成し玄関に壁新聞として掲示した。玄関に掲示したことで保護者の方も足を止め読む姿があった。また自分の写真が貼られていることで子ども達も指さして保護者に示したり、子どもが保護者に向けて自分の経験や知識をアウトプットする機会となったりした。園児の姿を伝えるだけでなく家庭への啓発がより進むように明確な表記を「お願い」の項目で取り入れるようにした。その結果、最終保護者アンケートでは、「幼稚園は安全教育の推進に努めている」の項目で「そう思う」が3%増加した。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・今後も、子どもたちがいろいろな人とのふれあいを通して豊かな心が育つことをねらい、保育内容の工夫や教師が架け橋となるような援助に努める。
- ・目標に沿った計画を立て、交流の厳選を行いながら地域や近隣の学校園と連携を図る。

取組内容②【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】

- ・降園指導の保護者アンケートで把握した実態を次年度への指導に生かす。
- ・避難訓練では、次年度も各年齢での発達段階をしっかりと把握し、達成度を見極めていく。

大阪市立長吉第二幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標通りに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○ 令和5年度の保護者アンケートで「子どもは、すすんで体を動かしている」の項目で「そう思う」「やや思う」を75%以上にする。 ○ 令和5年度の保護者アンケートで、「子どもは、基本的な生活習慣を身につけている」の項目で、「そう思う」「やや思う」を75%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ○ 遊びを通して体を動かす楽しさを味わえるような活動を工夫する。	A
指標 ① 体を動かして遊びたいようになるように遊具や活動を見直し、実践につなげる。（月に1回以上） ② 季節に応じた体操や遊びの年間計画を作成し、保育に活用する。 ③ 地域の公園や園外保育地を活用し、広い場所で体を動かして遊ぶ機会を年4回もつ。	
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ○ 健康的な生活リズムや生活習慣が身につくよう、保健指導や保護者への啓発を行う。	A
指標 ① 子どもの実態や課題を担任と共有、把握し、発達段階に合わせた保健指導を月1回実施する。 ② 歯と口の健康についての取組を年3回以上実施する。（保健指導、はみがきカレンダーなど） ③ 保護者が保健指導の内容に興味、関心をもてるよう啓発の方法を工夫する。（ほけんだより、写真掲示、ホームページへの掲載など）	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成】 令和5年度の最終保護者アンケートでは、「子どもは、すすんで体を動かしている」の項目で「そう思う」が91%「やや思う」が9%であった。 ① 毎月、体を動かす遊びや環境について話し合い、環境や用具の工夫を重ねた。遊戯室では、大型積み木やウレタン積み木、マット・滑り台などでコース・サーキットをつくり、子

どもの実態から遊具や配置を考え構成したことで、一人一人が意欲をもって体を動かし、それぞれの遊び方を楽しめた。

プール遊びでは、子どもが遊んでみたいと思えるような遊具を用意し、年齢に応じた内容を工夫したことで、存分に水の感触を味わって遊ぶことができた。

園庭での遊びでは、三輪車・スクーター等遊具のペンキを塗り替え美しくなったことで、興味をもつ子どもが増え、今まで以上に活発に運動遊具を用いて遊ぶ姿があった。一本歯下駄と半円ぽっくりの2種類を準備したことで、それぞれ歩く感覚の違いを楽しみながら、バランス感覚を養うことが出来た。また、一本歯下駄の鼻緒をゴムに付け替え、履きやすいように工夫したことで、5歳児が自分の思う難易度に合わせて挑戦できた。5歳児は運動会でも一本歯下駄を取り入れ、継続した活動につながった。3・4歳児もそれに刺激を受け、進んで挑戦する姿があった。コロナが5類に移行されたことで、今年度は全園児での運動会を行えた。子ども同士の関わりやふれあいをより大切にしようというねらいももち、3学年合同でパラバルーンを行った。一緒に活動する機会を設け、関わりがこれまで以上に増えたことで、リレーなど他学年の遊びにも興味を持ち、進んで遊ぶ姿につながった。4歳児は運動会のおみやげを、5歳児が運動会で取り組んだ縄にしたことや、各クラスが運動会で使った遊具を運動会後も好きな遊びの時間に使いやすい場所に置き、いつでも使えるようにしたことで、運動遊びに興味や憧れの気持ちをもち意欲的に取り組めた。

- ② 体操や仲良しあそびの年間計画を作成したことで見通しをもってクラスや集会で実施できた。また、既成の体操の振り付けを見直し、子どもの発達に応じた動きに変更したことで、より親しみをもってリズムを感じながら取り組めた。

保育所や他園との交流の中で新しい体操を教えてもらい、その後、保育に取り入れた。好きな遊びの時には子どもたちの興味に合った音楽を流すことで自然と集まり、体操やダンスを楽しむ姿が見られた。

年間を通して様々な曲に親しみ、体を動かす楽しさを味わえた。

- ③ 今年度は、地域散歩4回、園外保育5回実施した。地域散歩では大型遊具で体をダイナミックに動かして遊び、グラウンドでは広い場所で体を存分に動かして遊ぶことができた。5月のふれあい園外保育は、大型遊具や広い場で体を動かせるよう久宝寺緑地公園を選定し、ふれあい遊びや大型遊具での遊びなどを通し親子で存分に体を動かすことができた。また、天王寺公園の園外保育では、散歩の経験から友達と一緒にしっかりと歩くことができ、茶臼山に登ったり、橋を渡ったりと園外保育ならではの環境の中で体を動かす遊びをすることができた。10月には海遊館・大阪城公園へ2月にはキッズプラザ大阪へ出かけた。日々、体を動かしていたことで体力や自信がついており、館内や公園内の長距離を最後まで歩くことができた。園外保育を通して、幼稚園では味わえない遊びが出来、より体を動かし遊ぶ意欲へと繋がった。

取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】

令和5年度の保護者アンケートで、「子どもは、基本的な生活習慣を身につけている」の項目で、「そう思う」76%「やや思う」が18%であった。

- ① 毎月子どもの実態や課題を担任と共有しながら、子どもの発達段階に合わせて保健指導を行った。生活習慣を整える指導（４月手洗い、５月・１１月歯みがき・歯と口の健康、１０月睡眠、２月姿勢）、季節・時期に合わせた指導（６月熱中症対策、９月けがの予防、１０月目の大切さ、１２月手洗い、１月換気・咳エチケット）、食育（７月バランスよく食べる（３色食品群））など視覚教材やイラスト、模型を作成し、子どもが興味、関心をもって取り組めるよう工夫した。また毎月、保健指導案を作成、指導後には反省をした。指導案を毎年記録・保存していくことで、反省を生かすことができている。同じ指導内容であっても、新しい教材を使用したり、アプローチの方法を変えたりすることで、子どもが興味をもち、楽しんで学べるよう工夫した。
- ② 歯と口の健康について、各学年保健指導２回ずつ、長期休業中に取り組めるカレンダーの作成を２回行った。２月末には歯科園医と協力し、５歳児とその保護者対象に歯垢染め出しを行った。子どもがしっかり磨いたと思っていても歯垢が残っていることが分かり、子どもも保護者も驚いた様子であった。また、歯科園医から歯のみがき方や仕上げみがきの必要性などの講話を聴き、保護者からは「しっかりみがけていない箇所が分かって良かったです」「歯と歯茎の間に歯垢が残っていました。仕上げみがきを意識していきたいと思います。」「親も一緒に歯みがき頑張りたいです。」などの感想があり、仕上げみがきへの意識の向上につながった。また保護者啓発として、歯と口の健康に関する講話を１回、４、５歳児と保護者での咀嚼チェックを１回、「かみもぐだより」を３回作成・配布、また１年を通して毎月のほけんだよりに「健康は健口（けんこう）から」というコーナーを設け、口の周りの筋肉を動かす取組や簡単なゲームを掲載したことで、保護者も歯と口の健康に対する意識をもち、「もう少しかみ応えのあるものを入れようと思った」「改めてかむことの大切さを知り、子どもと一緒に自分自身もよく噛んで食べるように意識したい」などの感想があり、保護者の意識を向上させる機会になった。
- ③ 毎月のほけんだよりに加え、園庭の掲示板に保健指導の内容や子どもの様子を写真とともに掲示したり、作品展で、４月からの保健指導の内容を保健室前の廊下に掲示したりすることで、保護者と子どもが見て会話する様子が見られ、子どもが指導の内容を保護者と一緒に振り返ることができた。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向５ 健やかな体の育成】

- ・今後も行事後の遊具の配置環境をさらに見直したり、行事ごとの園児へ配布する教材を検討したりして、体を動かしたくなるように活動を考えていく。
- ・年間計画の見直しを学期ごとに行い、実態に合わせより充実していくように見直していく。

取組内容②【基本的な方向５ 健やかな体の育成】

- ・更に子どもの課題や発達段階を考えながら、子どもが楽しめる保健指導を行う。（教材の工夫、体感できる指導方法など）
- ・生活習慣を整えるという観点から、保護者が興味をもてる啓発方法を工夫する。（掲示、ほけんだよりなど）

大阪市立長吉第二幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標通りに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○ 令和5年度の保護者アンケートでの項目で「幼稚園は、子どもが意欲的に遊べる環境づくりに努めている」の項目で「そう思う」「やや思う」を75%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○ 子どもの実態把握に努め、就学前教育カリキュラム改訂版を活用し、子どもが意欲的に遊べる教育環境の充実を図る。	A
指標 ① 週1回保育の打ち合わせを行い、子どもが主体的に遊びたくなるような環境について検討する。 ② 月2回以上、子どもが園内の自然と触れ合えるよう、発達段階に応じて環境や保育内容の工夫をする。 ③ 年4回以上、園内研修会を行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>令和5年度の保護者アンケートで、「幼稚園は、子どもが意欲的に遊べる環境づくりに努めている」の項目で、「そう思う」100%であった。</p> <p>取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>① 毎週保育の打ち合わせを行った。就学前教育カリキュラムを参考にしたこと、発達段階や季節に合った遊びなどをバランスよく取り入れられているか確認することができた。打ち合わせ時に、全クラスの子どもの実態を教職員で共有し、環境づくりや働きかけについて意見交換したことで多角的な視点で保育の環境を工夫することができ、その結果、子どもが主体的に遊び、いろいろな活動に挑戦することにつながった。</p> <p>保育に使う教材や遊具の見直し、補充を行ったことで、子どもが自ら手に取って主体的に遊んだり、遊具や用具から興味関心が高まって、意欲的に遊んだりする姿につながった。（砂場、色水などの道具の補充、遊具のペンキ塗り、ままごと遊具の購入、など）</p> <p>② クラスの栽培物を、子どもの目につきやすい場で育てたことで、水やりや観察など子どもが自ら行う姿が見られた。</p> <p>3歳児は、畑を見る機会を多くもったことで収穫への期待が高まり、収穫時には手触りや形、大きさにも興味をもち、収穫物を大切に扱う姿があった。また、身近な園内の自然物(落</p>

ち葉、ナンテンなど)を自分たちで集め作品づくりに取り入れることで、無理なく園内の自然と触れ合うことができた。

畑に植える野菜は4、5歳児クラスの子どもと相談したり、教師間で吟味したりした。野菜に応じて、日当たりや広さなど、より適した場を考えたことで、夏野菜が例年よりも元気に育った。また、コメの栽培を通して、田植えや稲刈り、モミガラ取りや精米を経験したことで、身近なコメが口に入るまでの貴重な経験をすることができた。できたコメを自宅で食べたことを嬉しそうに話す姿があった。染物（玉ねぎ、日日草など）にも挑戦し、身近な植物から美しい色がでることに気づいたり、それらを生活に取り入れる楽しさを知ったりして貴重な経験となった。

毎年スモモやカキの実がたくさん成るので、計画的に花や青い実の季節にも、子どもたちと見る機会をつくったことで、変化に自ら気づく姿があった。収穫の喜びも存分に味わい、その経験から、他の実の成る木々への関心も高まった。（サクランボ、スモモ、ブルーベリー、カキ、ザクロなど）

- ③ 年間7回の園内研修会を行った。6月には教育指導員の指導を受け、その後の保育に生かすことができた。集会のもち方、絵画指導、表現活動などの保育を見合い、研修後は具体的な意見交換、討議を深めたことで、保育技術の向上や幼児理解につながった。

毎学期末、就学前教育カリキュラムをもとにクラスの活動を知・徳・体にまとめ、写真掲示を行ったことで、保護者への啓発や教育内容の理解につながった。教師も学期の保育の振り返りができ、知・徳・体の活動が重なり合って子どもが育っていくという過程を再確認する機会となった。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・今後も保育の打ち合わせに、就学前教育カリキュラム改訂版を活用し、更に教育環境の充実を図っていく。
- ・園内研究会が経験年数の少ない教師にとって、貴重な学びの機会になったので、次年度も年度始めに計画を立て進める。

令和5年度 学校関係者評価報告書

大阪市立長吉第二幼稚園 学校協議会

1 総括についての評価

- ・幼稚園が園児の実態をしっかり見て、日々の保育を大切に、ねらいや意図をもって取組内容を工夫していることがよく分かった。
- ・すべての取組において、保護者アンケート結果が目標値を超えて達成しており、幼稚園の教育を保護者が理解されていると感じる。教職員の努力の結果であろう。

2 年度目標ごとの評価

【安心・安全な教育の推進】

- 令和5年度の保護者アンケートで「幼稚園は、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目で、「そう思う」「ややそう思う」を75%以上にする。
- 令和5年度の保護者アンケートで「幼稚園は、安全教育の推進に努めている」の項目で、「そう思う」「ややそう思う」を75%以上にする。

- ・いろいろな人との関わりの中で、子どもが自分を受けとめてもらえているという安心感をもてることが大事。幼稚園は、先生と一緒に遊びを楽しんだり、思いの橋渡しをしたりして、十分に受け止め、安心感をもって人と関わり、心がつながるような援助をされていることが分かった。
- ・年間を通して、発達段階や園児の姿に合わせた避難訓練を実施し、それを「あんぜんだより」として掲示したことで園児も保護者も安全教育への意識が高まったことが分かった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和5年度の保護者アンケートで「子どもは、すすんで体を動かしている」の項目で、「そう思う」「ややそう思う」を75%以上にする。
- 令和5年度の保護者アンケートで「子どもは、基本的な生活習慣を身につけている」の項目で、「そう思う」「ややそう思う」を75%以上にする。

- ・遊びの中で、体を動かすことの楽しさを知り、すすんで取り組みたくなるような工夫が、用具やダンスや園外地など、いろいろな場所や場面でなされていることが分かった。
- ・生活習慣は一日でできるものでなく、継続が大事であり、幼稚園は繰り返しいろいろな方法で工夫しながら指導されている。保護者啓発についても努力されていることが分かった。

【学びを支える教育活動の充実】

- 令和5年度の保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが意欲的に遊べる環境づくりに努めている」の項目で、「そう思う」「ややそう思う」を75%以上にする。
- ・就学前教育カリキュラムを参考にバランスの取れた保育内容の工夫を、教職員で検討することで、楽しい環境がつけられていることが分かった。
- ・保護者に、知・徳・体の写真掲示することは、子どもの育ちが目で見えて分かりやすく、よい取組である。

3 今後の学校運営についての意見

- ・今後も園児の実態を捉え、幼児期に大切なことを幼稚園生活の中で身につけていけるような保育をお願いしたい。
- ・幼小の連携は、互いに心が育ちあう機会である。継続して連携を進めていきましょう。
- ・地域が大切にしている幼稚園。地域とつながって豊かな保育になっている。今後もつながりを大事に、子どもたちのために取り組んでほしい。